

第10回糸魚川市教育委員会定例会会議録

(平成29年6月28日)

- 1 日時 平成29年6月28日(金) 午後2時から
- 2 会場 糸魚川市役所 庁議室
- 3 出席委員 教育長 田原 秀夫
教育長職務代理者 佐藤 英尊
委員 永野 雅美
委員 楠田 昌樹
委員 蘆本 修一
- 4 委員以外の出席者
教育次長兼こども課長 佐々木繁雄
こども課 課長補佐 磯野 豊 係長 林 壮一
こども教育課 課長 山本 修 参事 石川 清春
課長補佐 松村 伸一
生涯学習課 課長 渡辺 孝志 課長補佐 小島 治夫
文化振興課 課長 磯野 茂 課長補佐 木島 勉
博物館 館長 大沢 喜昭
市民会館 館長 原 郁夫
書記 こども課主査 仲谷 貴子
- 5 報告
報告第 38号 いじめ・不登校の状況について

報告第 39号 中学校いじめ問題について

報告第 40号 各課・機関所管事項について

報告第 41号 教育委員会共催・後援事業について

報告第 42号 平成29年度全国標準学力検査(NRT)の結果と今後の課題について

6 付議案件

- 議案第 55号 専決処分の報告について
糸魚川市学校運営協議会委員の委嘱について
- 議案第 56号 平成 28 年度の教育に関する事務の点検及び評価に係
る外部評価委員の委嘱について
- 議案第 57号 糸魚川市外国語指導助手の任用について
- 議案第 58号 糸魚川市学校給食運営委員会委員の委嘱について
- 議案第 59号 糸魚川市親子保健計画を推進する会委員の委嘱につ
いて

7 会議録署名委員の指名 1番 佐藤委員

8 欠席委員 なし

9 傍聴者 1名

10 開会 午後 2 時

田原教育長

これより第10回教育委員会定例会を開催する。会議日程に従い、
進めさせていただく。

田原教育長

報告第 38 号いじめ・不登校の状況について、事務局の説明を求
める。

石川参事

いじめの状況であるが、今年度に入り、5月に新たに認知され
た件数を含め、小学校では4件、中学校6件の10件となっている。
また、その取り組み状況については、解消が2件、一定の解消3
件、取組中が5件となっている。いじめの内容は、記載のとおり
であるが、被害の子どもの感じ方による分類となっている。

不登校の状況であるが、4月から5月末まで小学校で1件、中
学校で7件となっている。また、不登校及び不登校傾向の児童生
徒の状況は記載のとおりであるが、対応としては家庭訪問をして
いるものが多い。また、ひすいルームが0件となっているが、最
近になりひすいルームへ行ってみようかという動きも出てきてい
ると報告も聞いている。また、家庭事情による長期旅行も数値と
して含まれている。

山本課長

今ほど説明のあった長期旅行の件について、補足して説明する。小学4年生のその他の1件であるが、保護者と海外に行っており保護者と連絡がついていなかった。5月末にやっと保護者と連絡が取れる状況となり、保護者の仕事の関係で市外へ転校することとなった。

また、中学生においては起立性調節障害と診断がされている生徒も多く、中には保護者があまり危機感を持っていない場合もある。保護者にも理解してもらいながら、学校や相談員が相談をしようと動いている案件も複数件ある状況である。

田原教育長
楠田委員

今ほどの報告について、ご質疑はないか。

各学校から事務局へいじめ報告が挙げられるタイミングはどうなっているか。その都度報告があるのか、1か月分をまとめて報告しているのか。

山本課長

いじめ報告については、その都度、報告がされている。いじめがなかった場合にも翌月5日までは事務局に報告事案がなかった旨報告することになっている。

鶴本委員

不登校傾向の子ども数については、これまでも話をしているところだが、チャンスづくりをチームで取り組むことが必要である。この中でも不登校が何年にも及んでいる子どもたちもいる。不登校の原因はいろいろな問題と絡み合っているものと思うが、主な原因として学習や健康状況、友達関係、家庭状況などと分析することで適切な切り口やチームで取り組むことができるのではないかと考える。不登校が長期になると学校現場もきっかけの糸口を探すことが難しくなってきた。それを何とかきっかけを作って、見通しを立てていくため、節目には状況を整理しておく必要がある。また、その情報を資料として提供してほしい。表だけでは経過がわからない。

山本課長

今年度から毎週金曜日には生徒指導支援員と担当指導主事がミーティングをしている。また、毎月、生徒指導支援員と相談員とのミーティングも行っている。鶴本委員の言われるとおり、子どもたちの不登校の原因や状況はひとりひとり違っているので、節目で状況を把握していきたい。

ある事案は、学校行事には参加できるが、通常の登校は出来ない場合もある。クラスの子どもたちが手紙を書いて働きかけをしても登校につながらないという例もあるようである。

佐藤教育長職務代理者

いじめについてであるが、当然であるが被害の子どもたちの目線で集計がされている。これははっきりしているわけだが、いじめている加害の子どもたちの意識がよりクローズアップされないと、いじめに対する取組が希薄になってしまうのではないか。

山本課長

今までの例をみても、加害の子どもたちからは「そんなつもり

はなかった」、「いじめているつもりはない」、「遊びのつもりだった」という話が多く聞かれる。子どもたちが相手の気持ちになって、相手の気持ちを想像して共感するという気持ちを育てていかないといじめはなくなるのではないかと思っている。相手のことを思う人権意識を育てていくことも大切であり、まだまだ未熟な子どもたちにきちんと教えていくことが大切である。また、子どもたちの前に立つ教員として、子どもたちの身近なモデルとしても人権意識も高めていくことが必要である。

佐藤教育長職務代理者

そのとおりだと思う。いじめがいつまでたってもなくなるということに対して人間関係をより良いものにしていく必要性はわかるが、その機運が常態化していかない。そこに問題があるように感じている。

田原教育長

いじめはなくなる、どこにでも起きうることだという前提で学校内でチームを組んで、学校によって意識の差や実態の差があることも承知しているが、それらの情報を共有していく場が必要と考えている。教育委員会やPTA連合会などによる研修などを地道に行っていくことが必要ではないか。課題は多いが子どもを第一に考えた教育を行っていく。

市内のみならず国内でも起きている悲惨ないじめを教訓として子どもたちにも未然に防ぐことのできる対応が必要になっている。これまでは起こったいじめに対して丁寧な対応をしていくことに重きが置かれてきたが、これからは、人権教育や道徳教育にも力を入れていかなければならない。

永野委員

糸魚川中学校に学校訪問をした際に校長から話があったが、今年度からいじめが起こった時点で全校にオープンにしているとのことだった。保護者にも文書を出しているとのこと、タイミングよく情報を知ること子どもたちや保護者にも気づきや抑制にもなっているようである。加害児童だけに指導することも必要ではあるが、みんなが同じ情報を共有していることも必要だと感じた。

不登校では家庭訪問対応が多くなっているが、ひすいルームなどへもより積極的に促してほしい。保護者は子どもが外へ出なくなることに非常に不安を感じていると思う。

田原教育長
山本課長

報告第39号中学校いじめ問題について、事務局の説明を求める。
運動クラブに係るいじめ問題についてであるが、先日26日に保護者説明会を行った。出席者は保護者が45名、教育関係者8名の出席であった。実際には保護者が両親で出席していた場合もあるので、もう少し出席していただいたかと思う。

保護者説明会では、いじめ問題専門委員会からの報告内容につ

いて要旨を説明し、それを受けた取組方針についても説明を行った。

その後、現在の学校と運動クラブの協議の状況についても穏やかに進めていることも説明をし、運動クラブ側も昨年秋から今年6月まで活動を自粛していたことも説明した。これからも子どもたちのためにどのようにしていくことがよいのかをルール作りを進めている。

また22日には、市議会の総務文教常任委員会でも同様の報告を行っている。

田原教育長
佐藤教育長職務代理者
山本課長

今ほどの報告について、ご質疑はないか。

現時点で一定の収束の見通しはどうか。

学校と運動クラブとのルール作りについて協議を進めているところであるが、学校では他の生徒と同様に、体調が悪い時にその対応について学校に報告してほしいとお願いをしており、そのとおりにやってもらっている。問題行動があった場合にも同様に連絡を取り合っていきたいということをお互いに同意している。

そういったルールを明文化していくことが必要と考えている。

来年度の新入生の受け入れについても現在協議を進めている。

田原教育長

昨年の秋以降、教職員や指導者にも子どもの様子に注視してもらおうよう教育委員会からもお願いをしてきている。そのおかげもあって、子どもたちは通常通り学習活動を行っている。私から見ても以前から比べると、学校全体が落ち着いて運営されていると感じている。これは、学校の教職員の丁寧な対応のおかげだと思っている。今後についても、子どもたちの小さな日常の変化に気づき、チームとして対応していく姿勢を学校も持ってくれている。

今回の件で被害生徒、被害生徒の心の傷は大きく簡単に無くなるものではないが、まわりの人がそれを受け止めて学校生活を送っている。

ルール作りも簡単にできるものではないが、学校、クラブ、教育委員会が足並みを揃えて協議できるようになっている。課題は多いが、丁寧に協議をしていきたい。

靄本委員

待ち望んでいた保護者説明会も開催し、市議会へも報告できたということで、教育委員会が目標にしてきた節目を迎えて安心している。

先ほど佐藤委員も言われたが、終結・収束を目標にして歩むことが大切である。そのステップとして必要なのはルール作りであり、いじめ問題専門委員会からの提言を積極的に受け止めてルール作りをすることが非常に重要であると思う。

決められたルールに対して、いつ、だれがどのようにやるのか、また、それをどのように評価していくのか、などの具体的な実践

	<p>に対する記録と実証についても、しっかりと発信していく必要があるのではないか。実践に対する発信をしていくことも終結に向かっていくひとつの要因である。</p> <p>校区外就学について、教育委員会としていつ宣言をするのか、提言に沿って行うということをどのように宣言するのかと言う見通しも立てていかなければならない。</p>
佐藤教育長職務代理者	<p>クラブをやめた、でも、その競技をこれからも続けていきたいという子どもの気持ちを大切することこそ教育ではないか。このような事件で子どもたちの夢が砕かれるということは、それこそ反教育的な意味を持つことになる。そういったことを意識して、共有していきたい。</p>
田原教育長	<p>子どもたちは何を望み、どうありたいのかということに私たちがどのように寄り添うかではないか。</p> <p>子どもは目標や夢を持っている。それが叶えられるように支援するのが教育委員会であり、学校である。</p>
田原教育長	<p>報告第 40 号各課・機関所管事項について、事務局の説明を求める。</p>
磯野課長補佐	<p>こども課所管事項報告</p>
石川参事	<p>こども教育課所管事項報告</p>
小島課長補佐	<p>生涯学習課所管事項報告</p>
木島課長補佐	<p>文化振興課所管事項報告</p>
小島課長補佐	<p>図書館所管事項報告</p>
大沢館長	<p>博物館所管事項報告</p>
原館長	<p>市民会館所管事項報告</p>
田原教育長	<p>今ほどの説明について、ご質疑はないか。</p>
山本課長	<p>前回、インフルエンザの流行期間が長いことについて、質問をいただいた。医療機関等に確認をしたところ、今年は、最初に A 型が流行った後、B 型が流行ったことが原因の一つのようである。また、今年の B 型は症状が出づらかったこともあり、感染していることに気付かないまま生活しているということも多かったため感染が長期間に渡っていたのではないかということであった。</p> <p>学校へ春先にも感染症予防対策をとるように指示したい。</p>
靄本委員	<p>3 点お願いします。1 点目は漢字能力検定の受験状況について、2 点目は学力向上プロジェクト会議について、3 点目は教育支援委員会について、それぞれ状況等を教えてほしい。</p>
山本課長	<p>漢字能力検定は今年度の 1 回目は 136 名が受験している。昨年度 147 名、一昨年度は 106 名であった。2 回目もあるので、トータルでどのくらいになるかと思っている。</p>

	<p>学力向上プロジェクト会議は昨年度から行っている。昨年度は管理職に出席してもらっていたが、今年は現場の職員を入れて行っている。授業改善について具体的に大和川小学校の田村校長先生をキャップに取り組んでもらっている。</p> <p>教育支援委員会は、以前は就学指導委員会と言われていたものである。対象となっている子どもたちが増えてきているところである。</p>
楠田委員	<p>中学生海外派遣事業であるが、今年は希望者が少ないという話も聞いているが、現状はどうか。</p>
山本課長	<p>すでに募集は締め切っている。定員は 30 人であったが、今年は 19 人であった。どうして少なかったのかは、こちらとしても理由がわからない。</p>
佐藤教育長職務代理者 渡邊課長	<p>大人のワクワク探検隊も面白い企画だと思う。</p> <p>これは人材育成を主眼にしている企画であり、青少年育成指導員のなり手不足もあり、我々大人も子どもに接するにあたって、しっかりとした知識とスキルを得ていきたいと思っている。</p>
佐藤教育長職務代理者	<p>私が思っていた企画とは違って、もっと地域を知る行事として思っていた。そういった内容の行事も必要ではないかと思う。それであれば、違う事業名でもよかったのではないか。</p>
田原教育長	<p>報告第 27 号教育委員会共催・後援事業については、記載のとおりである。</p>
田原教育長	<p>議案第 55 号専決処分の報告についてである。糸魚川市学校運営協議会委員の委嘱について、事務局の説明を求める。</p>
山本課長	<p>田沢小学校の学校運営協議会委員について、1 名の委嘱替えを行いたいものである。</p>
田原教育長 委員	<p>今ほどの説明について、ご質疑はないか。 (「なし」の声あり)</p>
田原教育長 委員	<p>それでは採決に入る。この議案についてご異議はないか。 (「異議なし」の声あり。)</p>
田原教育長	<p>異議なしと認め、承認する。 原案のとおり承認</p>
田原教育長	<p>議案第 56 号平成 28 年度の教育に関する事務の点検及び評価に係る外部評価委員の委嘱について、事務局の説明を求める。</p>
佐々木次長	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて行っている評価である。昨年度よりお願いしている高橋守さんを再度、委嘱したいものである。</p>
田原教育長	<p>今ほどの説明について、ご質疑はないか。</p>

委員	(「なし」の声あり)
田原教育長	それでは採決に入る。この議案についてご異議はないか。
委員	(「異議なし」の声あり。)
田原教育長	異議なしと認め、承認する。 原案のとおり承認
田原教育長	議案第 57 号糸魚川市外国語指導助手の任用について、事務局の説明を求める。
山本課長	A L Tの任用についてである。記載のとおり 5 名の任用をお願いしたいものである。5 名のうち継続が 1 名、新規が 4 名である。今年度より 1 名増員して糸魚川中学校に 2 名配置している。小学校、保育園にもより巡回できることになる。 また、この 5 名に加えてセオドアさんも保育園等を巡回してもらおうこととしている。
田原教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
楠田委員	5 名の情報交換体制の状況はどのようになっているか。
山本課長	これまではそのような機会がなかったが、今年度から月 1 回の情報交換の機会を設けることとした。
鶴本委員	A L Tの活躍は期待されているところだと思う。A L Tの勤務評定はどのようにされているのか。課題や成果等はどのようにしているのか。
山本課長	教員の場合には、校長が教員評価をして面談するが、A L Tの場合にはそういった評価や面談はない。ただし、校長から事務局へは評価をあげてもらっている。個々の評価については派遣団体へも送っている。A L T個人に対してはこれまで行ってきていないので、今後の情報交換の中で行っていききたい。
田原教育長	それでは採決に入る。この議案についてご異議はないか。
委員	(「異議なし」の声あり。)
田原教育長	異議なしと認め、承認する。 原案のとおり承認
田原教育長	議案第 58 号糸魚川市学校給食運営委員会委員の委嘱について、事務局の説明を求める。
佐々木次長	学校給食運営委員会については今年 3 月に要綱設置を行ったところである。学識経験者 3 名、学校関係者 4 名、保護者代表 1 名の 8 名の委員となっている。委嘱期間は、平成 29 年 7 月 1 日から平成 31 年 6 月 30 日までである。
田原教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
委員	(「なし」の声あり)
田原教育長	それでは採決に入る。この議案についてご異議はないか。

委員	(「異議なし」の声あり。)
田原教育長	異議なしと認め、承認する。 原案のとおり承認
田原教育長	議案第 59 号糸魚川市親子保健計画を推進する会委員の委嘱について、事務局の説明を求める。
佐々木次長	親子保健計画を推進する会については、今年 5 月に要綱設置を行ったところである。委員は 11 名で、委嘱期間は平成 29 年 7 月 1 日から平成 31 年 6 月 30 日までである。
田原教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
委員	(「なし」の声あり)
田原教育長	それでは採決に入る。この議案についてご異議はないか。
委員	(「異議なし」の声あり。)
田原教育長	異議なしと認め、承認する。 原案のとおり承認
田原教育長	本日、追加した報告第 42 号平成 29 年度全国標準学力検査 (N R T) の結果と今後の課題について、事務局の説明を求める。
石川参事	小学校においては、50 を全国平均とした場合、すべて 50 を上回っている。昨年度と比較すると若干下がった部分もあるが、概ね良い結果であった。 中学校においては、1 年生は全国平均の 50 を上回っているが、2 年、3 年生は 50 を下回っている状況である。下回っているものを分析していくと、学校や教科によつての違いも出てきている。 この結果を踏まえて喫緊に取り組む課題として、4 点を挙げている。 1 点目は各学校が N R T の結果を分析し、指導の改善を図る。具体的には、読み取る力、資料を活用する力などを分析し、自校の課題に対する改善策を実践する。 2 点目は学力向上推進システム「Web 配信問題」の活用の仕方を全職員で見直す。県が発信している單元ごとのミニテストの結果も分析し、理解度の低い部分を補充していくことが必要である。 3 点目は成果を挙げている学校、挙げつつある学校の取組を紹介し合う場を、小中別の校長会等で設定する。 4 点目は陰山メソッドを正しく理解し、「集中力」を高め学力向上につなげる。陰山メソッドのモデル校である小学校 3 校は偏差値平均が 54.2 となっており、実施計画における小学校目標値の 55.0 に近づいている。今年度は市内の小学校全校を対象として取り組んでいるので来年度の数値に期待したいところである。 また、中学校では学力低下が課題となっており、特に数学の落

ち込みが大きい。今年の中学3年生の偏差値は48.5であるが、彼らが中学1年生の時は52.1であり、小学6年生は53.7であった。年々、下がっている状況である。この部分を改善すべく今年度からデジタル教科書を導入している。夏休みには数学主任に詳しくレクチャーする予定としている。

「学ぶ目的」や「自分の未来」等の学習行動の原動力となる意欲の部分にも課題があると捉え、何のために勉強するのか、何のために生きるのかということを経験教育としていろいろな体験で学ぶことで考える力をつけていきたい。また、漢字検定や英語検定などへの受験の働きかけなどをすることにより学ぶ意欲を引き出す指導の充実を図っていきたい。授業改善についても、上越教育事務所、当市の指導主事の訪問による助言で引き続き改善を図っていく。子どもの活動中の見取りを丁寧に行うことも必要であり、不足している部分を事務局としてもバックアップしていきたい。

中学校では家庭学習の時間の少なさも数値として表れている。どのように家庭学習を進めたらよいかわからないということもあるので、的確なアドバイスをしていきたい。

田原教育長
佐藤教育長職務代理者

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

気になるのは、中学校の50以下という数値である。子ども一貫教育は学力においても一貫していかなければならないと考えている。なぜ中学校で落ち込んでしまうのかは重要な問題である。そこで、厳しい視点から問題点を探ることが必要である。ぜひ、お願いしたい。

鶴本委員

今ほどの説明で具体的な数値や経年変化もわかったわけであるが、今回挙げられている課題で成果を挙げつつある学校の取組みを紹介し合う場を設定することが大切ではないか。校長会等で話し合うことで管理職の意識が変わり、職員を奮い立たせ、子どもたちの授業に変化が出るのではないか。この部分をよりはっきり教育委員会事務局として取り組んでほしい。

学校訪問をしてみると、中学校区単位でも随分、雰囲気が違う。青海中学校区では、漢字を早めに学習することに取り組んでいる。中学校がそのために資料を作り、校区内の小学校で取り組みを進めている。漢字を先取りして学ぶことで、読む力、取り組む力の向上を目指しているものである。各中学校区や学校が切磋琢磨することで学力向上を目指してほしい。こういった事例や取組みを校長会等で教育委員会事務局としてしっかり情報を発信してほしい。校長先生方に火がつけば、学力が向上することは間違いない。

佐藤教育長職務代理者

計算問題がよくできるが文章題はなかなか数字には表れない。これは読む力、読み取る力、結局は国語力の問題であると思う。

道具教科としてしっかり身に着けさせることが必要ではないか。文学的にとか情緒的にということだけではなく、道具としての国語の力を身に着けさせることが重要だと思う。

永野委員

陰山メソッドの取組みについて、各学校で温度差があるように感じた。取り組んだ結果は子どもたちの力として返っていくものなので、どの学校にいても同じように取り組まれることが必要である。

山本課長

先日、陰山先生の事務所から陰山メソッドの取組みがテレビで放映されたDVDが送られてきた。各学校にも配付をした。やはり、学校ぐるみで取り組んでいることが大きいと陰山先生も言われていた。

当市に最初に来られた際も「校長先生を集めてほしい」と言われて、校長先生を対象とした研修会を行った。校長先生にしっかりと理解をしてもらい、学校全体で取り組むことで成果が上がることにつながっているということである。

8月には校長面談を行う予定であり、その際に各校の学力向上の方策について聞き取り、取組状況を確認していく。子どもたちには力がある。その力をしっかりと伸ばしていくことが教員の使命だと思っている。

校長会で情報発信という話もあったが、明日は教頭会も開催される予定となっている。その場でも学力向上の取組みについて話をするこことしている。校長だけでなく教頭にもしっかりと理解をしてほしいと思っている。

読解力の課題は大きいと思っている。先日の新聞報道でも、読書時間の減少や新聞を読む機会も減っているとあった。読解力の必要性は感じているところであり、新しい学習指導要領でも国語に限らず、他の教科でも「言語活動を通して」という取組みが多くなってくるので、しっかりと指導をしていきたい。

11 次回教育委員会定例会開催日

平成29年 7月25日（火） 午後2時より

12 閉会

田原教育長

第10回教育委員会定例会を閉会する。

午後3時40分 終了